

○交通事業者によるバリアフリー車両への転換・導入

路線バス車両のバリアフリー化は、令和3（2021）年度末時点で、防長交通は94.8%（55/58台）、中国ジェイアールバスは71.4%（5/7台）と高い水準となっています。

車両の更新や購入に合わせ、今後も引き続きバリアフリー車両を順次導入します。

▼ノンステップバス*車両



○バリアフリー車両の周知の強化

市内を運行する路線バス車両の多くが、既にバリアフリー車両（ノンステップバス*又はワンステップバス*）となっています。バリアフリー車両では乗降が楽にできること、車椅子やベビーカーでも利用ができることなどを積極的に周知します。

▼防府市の小学校で開催された「バスの乗り方教室」



資料：防府市HP

実施主体 下松市、交通事業者、沿線事業者

実施時期 令和5（2023）年度～

事業⑥ 公共交通に関する情報発信の充実



概要

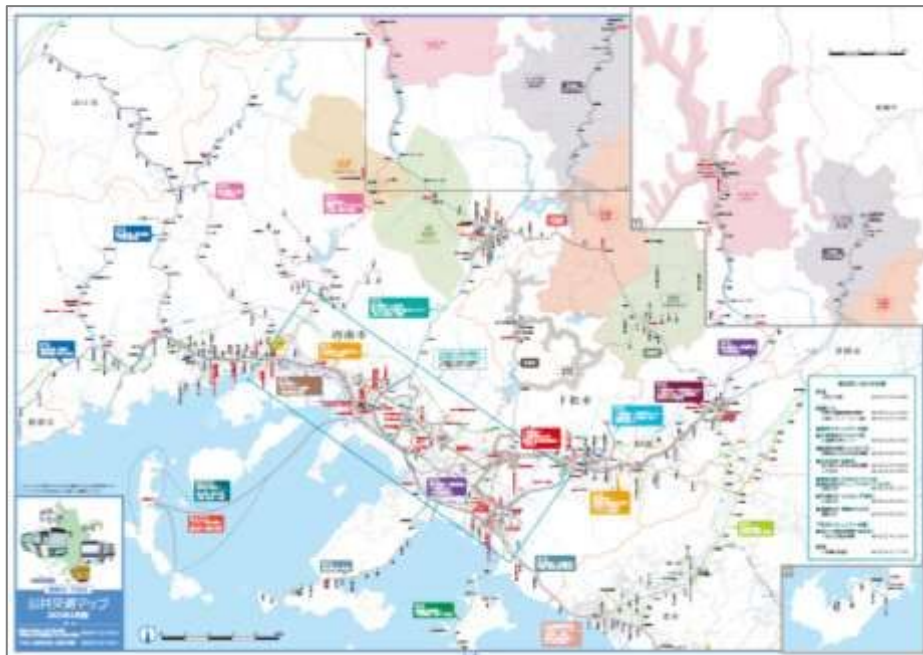
公共交通利用者の利便性を向上させるため、バス停表示等の改善や、様々な媒体を活用することにより、情報の発信の充実を図ります。

事業例

○公共交通マップの継続的な更新・改善

現在、周南市と協力して公共交通マップを作成しています。今後も引き続き周南市と連携し、毎年度更新を行います。更新した公共交通マップは市HPで公開すること等で周知を図るとともに有効活用に努めます。

▼周南市・下松市公共交通マップ（表面）



○バスロケーションシステム*等のデジタルサイネージ*の設置

バスロケーションシステムを活用することにより、バスがいつ来るか明確になり、利用者の心理的負担を軽減するとともにバス停での待ち時間を短縮することができます。バス停の利用状況や近隣施設の状況を踏まえ、適切な設置場所を抽出し、デジタルサイネージの設置を検討します。



▲ゆめタウン下松に設置されているデジタルサイネージ

○下松駅改札口付近への案内サイン等の設置【再掲】

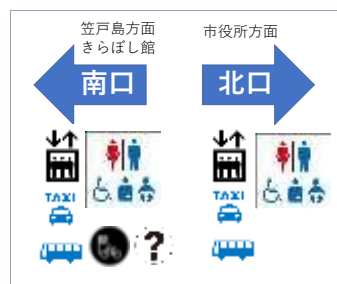
下松駅は南と北に出入口がありますが、現在は下松駅改札口を出た際に、施設や、バスのりば、タクシーのりば等がどちらの出口方面にあるのかを駅舎内の案内板だけで判断することが難しい状況となっています。改札口を出て正面など、利用者の目につきやすい箇所に案内サインの設置を検討します。

併せて、南口と北口にあるそれぞれのバスの運行情報が把握できるよう、バスロケーションシステム*等が含まれるデジタルサイネージ*の設置を検討します。

▼現在の下松駅改札口付近



▼案内サインの例



○G T F S *データの整備

現在、米泉号及び市内を運行する防長交通の路線についてはG T F Sデータが作成されていないため、Google マップなどの地図アプリで経路等を検索することができません。公共交通の経路検索の際の利便性の向上等のために、米泉号及び防長交通のG T F Sデータ整備の検討を行います。

▼中国ジェイアールバスのG T F S



実施主体	下松市、交通事業者
実施時期	令和5（2023）年度～

事業⑦ 公共交通サービスのデジタル化の推進



概要

公共交通の利用者の利便性向上と、公共交通の供給者の生産性向上による持続可能な体制の構築のため、キャッシュレス化*等の推進を図ります。

事業例

〇キャッシュレス化の支援と有効活用

引き続き交通系 I C カード*「ICOCA」等のキャッシュレス化を支援します。また、市内では既に J R 山陽線及び路線バスで交通系 I C カード「ICOCA」が導入されているため、鉄道とバスの乗継やバスとバスの乗継の際に、カード1つで支払いが可能です。そのため、乗継の利便性が向上し、利用促進にもつながることが想定されるため、更なるキャッシュレス化の有効活用の方法を研究します。

▼交通系 I C カード「ICOCA」の活用事例

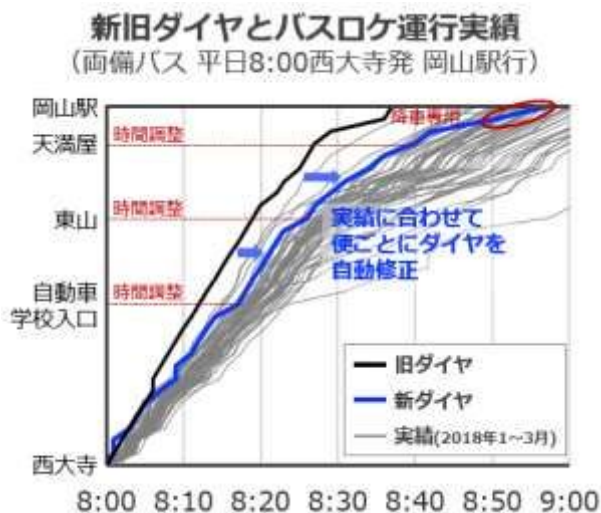


〇データを活用した運行改善の試行

バスロケーションシステム*で蓄積される運行データをもとに、例えば遅延が常態化している箇所・時間帯を抽出し、より実態に合った運行ダイヤに修正することでダイヤの遅延の縮小が期待できます。

また、交通系 I C カード「ICOCA」によって得られる乗降データ等を活用し、バス路線の改善等に反映することが期待できます。

▼バスロケーションシステムの運行実績によるダイヤ調整の例



OMaaS*等の先進事例の研究

国内でも導入が進められている様々なMaaSについて、事例研究を行います。宿泊施設や観光施設、アクティビティ、レンタサイクル*等と連携した観光系MaaS、病院やレストランの予約やイベント等と連携した住民の日常生活系MaaSなどが考えられます。

▼MaaSのイメージ



資料：国土交通省

〇バス助成券等のデジタル化の研究

バス助成券等のデジタル化を見据え、研究を行います。利用者のスマートフォンで助成券の申請・発行・利用が可能になれば、利用者の利便性向上につながるとともに、助成券の印刷費、郵送費のほか、市や交通事業者における資料の整理・精算の人件費の削減が期待されます。さらに、マイナンバーカードとの連携が実現すれば、より一層の利便性向上が見込まれます。



資料：デジタル田園都市国家構想実現会議「前橋市の取組<デジタル基盤整備>」

▼前橋版M a a S* (Suica とマイナンバーカードの紐づけ)



資料：「Suica 1 枚でマイナンバーカード所有者向けの特典を受けられます」
 東日本旅客鉄道(株)・JR 東日本メカトロニクス(株)・(一社) ICTまちづくり共通プラットフォーム
 推進機構

実施主体	下松市、交通事業者
実施時期	令和5(2023)年度～

目標 2 - 2 公共交通の利用意識の醸成と利用促進

事業⑧ モビリティ・マネジメントの推進



概要

公共交通について学び、体験する機会を設けることで、公共交通への興味・関心を高めるとともに、ターゲットを絞り、それぞれに適したモビリティ・マネジメント*や情報提供を実施します。

事業例

○乗り方教室、出前講座の開催

小学生や中学生、親子、高齢者などターゲットごとにイベントの開催を検討します。路線バスや鉄道の乗り方教室、スマートフォンでのバスロケーションシステム*の使い方講座等の実施を検討します。

また、市内を運行する路線バス車両の多くが、既にバリアフリー車両（ノンステップバス*又はワンステップバス*）となっていることから、バリアフリー車両における車椅子やベビーカーでの利用方法等も積極的に周知します。

▼「バスの乗り方教室」



資料：防府市HP

▼「JR久留里線乗り方教室」



資料：千葉県君津市HP

▼「スマホなんでも相談会」



資料：くだまつ社協だより

○ターゲットを絞った公共交通マップの配布

公共交通マップの配布の効果を高めるため、より公共交通の利用が見込まれる市民を対象に公共交通マップの配布を行います。

市役所に転入手続に訪れた転入者を対象に、公共交通マップを配布します。交通の習慣が固定されていない転入段階において公共交通に関する情報提供を行うことで、公共交通を利用する習慣づけに高い効果が期待されます。

また、市内に住む70歳以上を対象とする「高齢者バス利用助成事業」や「自動車運転免許返納者への記念品配付事業」の申請者に対して、公共交通マップも併せて配付します。

○自動車運転免許返納者への記念品配付事業

自動車運転免許の返納者は自ら自動車を運転することができないため、公共交通を利用する必要性が高まります。自動車運転免許返納者に対し、引き続き交通系ICカード*「ICOCA」等の公共交通に係る記念品を配付します。

○ノーマイカーデーの推進

ノーマイカーデーを周知するだけでなく、公共交通の運行情報や公共交通を利用することで得られるメリットなど、積極的に情報提供を行い、車やバイクから公共交通への転換を促します。

▼ノーマイカーデーの取組（埼玉県飯能市）



2021 はんのう市ノーマイカーデー
12/1 ▶ 12/31

路線バス、鉄道、タクシーなど公共交通は「あってあたり前」ではありません。
今、人口減少やコロナ禍での外出自粛により、交通事業者は厳しい状況に置かれています。
これからも わたしたちのまちに 公共交通を残すために
この1か月、いつものマイカー利用を控えて 公共交通を再利用しましょう。

飯能市乗合ワゴンに乗ってみよう
ノーマイカーデーに参加すると、期間中、市内を運行する「飯能市乗合ワゴン」に無料で乗車できます。日常のおでかけの際にぜひ時間をあわせて使ってみてください。 ※参加期間中は

公共交通の現状を知ろう
路線バスなどの公共交通機関は使われないと、減便などにより不便になってしまいます。
人口減少、コロナ禍における飯能市の公共交通の「今」を知りましょう。

環境にやさしい取組です
マイカー利用を控えて公共交通利用に切り替えることで温室効果ガスの排出を削減できます。自転車や徒歩なら健康にも効果的！

参加申込はこちら（電子申請）

実施主体 下松市、交通事業者

実施時期 令和5（2023）年度～

事業⑨ 公共交通の日常利用の促進



概要

公共交通の利用者数の増加のため、一時的な利用者だけでなく、通勤、通学、日々の買い物など、日常的な公共交通の利用者の増加につながる取組を推進します。

事業例

○JR岩徳線利用促進委員会による取組の実施

JR岩徳線利用促進委員会の構成員として、従来のイベントなどの利用促進策だけではなく、JR岩徳線の日常利用を促進する新たな取組の実施により、利便性の向上や利用促進に努めます。

▼JR岩徳線



○米泉号の新規利用者の掘り起こしのための利用促進のイベントの実施

地域のイベントなどに米泉号の車両を展示するなど、住民に親しんでもらえる機会を創出します。また、その他の活用場面として、小学校の学習、行事等での利用や通勤・通学での利用を想定し、周知に努めます。

▼くだまつ商工まつり2022への出展



○日常利用につながるきっかけとなるイベントの継続実施

公共交通の利用頻度が低い市民の割合が多いですが、公共交通を利用する機会やきっかけがないことも理由の一つと考えられます。路線バス事業者においては、夏休み等の長期休み期間中に小学生が1乗車50円で利用できる「こども50円バス」の取組を継続的に実施しています。子どもだけでなく、保護者にも波及効果が見込めることから、引き続き実施します。

▼「こども50円バス」



資料：山口県バス協会

○通学定期券の購入・利用促進策の研究

中高生等の通学やその他の移動における公共交通利用を促すため、通学定期券を購入する際の負担を軽減したり、通学定期券所有者へのインセンティブを付与したりするなど、通学定期券の購入・利用を促す取組を研究します。

- ▼バス又はJRの通学定期券の購入者限定で、1ヶ月500円でバスが乗り放題になる「ちょこっとバス」



資料：備北交通

○複数の交通事業者による共通定期券等の研究

鉄道と路線バスの徳山駅～岩国駅間や、路線バスの下松駅～室積方面は、異なる交通事業者が平行して運行しています。これらの運行区間について、いずれの交通事業者の便でも利用可能な共通定期券・共通回数券の導入等を研究します。

- ▼「広島共通定期券」



資料：広島交通株式会社・広島電鉄株式会社

実施主体	下松市、交通事業者
実施時期	令和5（2023）年度～

目標3 関係者との協働・連携による持続可能な公共交通の構築

事業⑩ 公共交通の担い手の確保



概要 公共交通の安全な運行を担う運転士等の確保のため、採用に係るイベントを実施します。また、安全で質の高いサービスが継続的に提供されるよう、運行の担い手となる運転士等の職場環境や待遇の改善を図ります。

事業例 ○交通事業者と連携した求人活動の実施

より一層の集客や多様なイベントを開催するために、本市だけでなく、周辺自治体と各交通事業者と共同での就職イベントの実施等を検討します。また、イベントの開催について、市の広報ツール（広報誌、市HP、SNS*、メールサービス等）を利用し周知を行います。

▼山口市公共交通委員会の取組

運転士 求む!!!
バス 運転士体験会 & 就業説明フェア
 令和4年 **10月9日** 日
 11:00~17:00 (雨天決行)
 山口県湯田自動車学校
 山口県湯田町4-55

バス・タクシー運転士が足りません!!
 バス・タクシー運転士の仕事に興味のある方や
 将来的に就いておきたい方は以下の連絡先まで

▼愛媛県の取組

運輸のお仕事魅力 発見バスツアー

8:30 いよてつ湯島屋 びっちゃん広場集合	8:00 新居浜駅前→17:10 伊予西条駅前→18:10 伊予駅前
9:30~ 11:30 湯島屋	10:30~ 11:30 湯島屋
12:30~ 13:30 【昼食】 レストラン北条、中津	12:30~ 13:30 【昼食】 八幡町までセントラルホテル、中津
13:30~ 14:30 【体験乗車】 伊予西条駅前集合	13:30~ 14:30 【体験乗車】 伊予西条駅前集合
14:40~ 15:40 【体験乗車】 伊予西条駅前集合	14:30~ 15:30 【体験乗車】 伊予西条駅前集合
15:10 いよてつ湯島屋 びっちゃん広場	16:30 新居浜駅前→17:10 伊予西条駅前→18:10 伊予駅前

○運転士等の職場環境や待遇の改善

昨今の高齢化や人口減少下において、労働市場全体で人手不足が生じる中、運転士等の公共交通の担い手も減少傾向にあります。こうした状況を踏まえ、安全で質の高いサービスが継続的に提供できるよう、引き続き運転士等の職場環境等の改善に努めます。

実施主体 下松市、交通事業者、周辺自治体

実施時期 令和5（2023）年度～